

て人はいないと思えますけどね（笑）、国歌だという事を知らない人いるんじゃないですか。

それじゃあ、「日の丸って何ですか？」って聞いても、国旗だと分からない人いるんじゃないかと思えますね。これは、先生達が学校でやらせない処もありますからね。しかし厳密に言ったら、国歌や国旗が無い国がある訳がない。

ところが、それをやると、「軍国主義だ」と言う人が出て来る訳ですよ。

世の中というのは、もう自分の勝手な事ばかり言う人が多くなってきた訳ですね。我々は本当の事が分からないから、自分の事ばかりを考えて、そしてこの世を終わって行く訳です。

一三、執着の果て——初めてお化けと遭遇

私が初めてお化けに出会ったのは、高橋先生の仕事を手伝うようになった時です。

私はね、元々物凄く鈍感なんです。感覚が鈍いんですよ。人が、アツと思うような事でも、それから暫くしてから、「何かあったんですか？」なんて調子なんです。

まあ、お化けなんてものは、あまり見ない方がいゝですけども、高橋先生がお元気な頃、長野県の志賀高原で研修会があった時のことです。

その日の日程が終わって夜寝た。そうしたら夜中に、私の隣に寝てる人が、フツと起き上がる訳です。そしてまた、スツと寝る訳ですよ。まあ、夢遊病者みたいに何回もやる訳です。

私は、「この人どうしたのかな？」と、薄目を開けたんですけども、何かこう「これは只事じゃない」と感じた訳ですよ。私は臆病ですからね、厭ですからもう……布団被って寝ちゃった訳ですよ。（笑）

そしたら次の朝になって、その隣にいらした先生が、

「朽木さん、何で起きてくれなかったの？ 布団の中から、こっち見てたじゃないの」「どうしたんですか、先生……」

——お化けだった訳ですよ。私と、隣の人のお化けが立っていた訳です。その

前の方にも、他に三人も四人もいたんですよ。

私は幸い臆病ですから布団被ってましたけど、隣の人は寝られなかったそうです。まあ、それが私が最初に観たお化けなんですね。だけど、私はそれをもろに観た訳じゃない。しかしそれから後、いろんな事に遭うようになったんですよ。

これは、高橋先生と講演の旅行をしている時に、京都にある大きな割烹旅館に泊めて貰った時の事ですが、高橋先生は、本館の前に庭があつて、砂利がズーツと敷いてある奥の離れの部屋に、お一人で寝ておられた。

夜中になつて、先生が私達の部屋にみえて、

「悪いけど、誰か私の部屋の方で、一緒に寝て貰えませんか」

と仰ったんですよ。「あ、何かお化けでもいるのでは」と思ったんですよ。

「先生、どうされましたか」

「いやね、実は寝られなくて困っているんですよ」

ところが、他にいた三人の人は、みんな話も聴かないで布団を被って寝てしまったんですよ。(笑) 後は私だけなんですね。折角そうやって来られたんだし、私が年長

でしたし、霊的なものも鈍感ですから、

「先生、私が行きますよ」

と、ご一緒したんですよ。

そして、離れの敷居に足を踏み入れようとした途端、「あつ！これはいけない」と、もうそこで分かったんですよ。「これは、いるな」と思いましたよ。先生が、

「私は鼾をかくから、互い違いに寝ましようや」

と仰つて寝た。もう夜中の一時過ぎ……と、暫くしたら、パラパラ……つて音がするんですよ。「あれーっ？」と思つた。ここは日本家で、障子が廊下の方にズーツとあるんですよ。風も何も無い。風ではなくて、実は障子の棧を擦る音なんですね。そのうちに、バタバタ……と大きな音になった。

今度は足音がして、「までーっ！」っと、自分が言われているのかなと思うくらい、はつきり聴こえてくるんですね。「あ、これはいけない」とそう思いましたよ。(笑) それでも、「先生がいらっしやるから、まあいゝか」と布団被って寝たんですよ。その後、夜中に、ふと先生の方を見てみると、寝られなくて起きていらっしやるん

です。そして、そのお化け達に一所懸命に話をしている訳ですよ。

「あなた達はね、こんな処にいても、救われないですよ……執着を捨てるんですよ」と仰っているんですね。

その人達はみんな明治維新めいじいしんの時の人達ですね。死んだ事も気が付かずに、未だいまにチャンバラをやっている人達がいるんですよ、そのままの状態で——。

やられたら、「やったな！」と何年もく〜争いを繰り返している。

京都という処は、大昔から都みやこですから、あの中で人を殺ころしたり、殺されたり、ガタガタ……やっている処なんです。

そんな事を言ったら、京都の旅館に泊とまれなくなってしまうですけど、本当にそういう事があるんですよ。皆さん分らないから、平気へいきで泊とまっているだけであってね。

私は元々臆病おくびょうなんです。その辺で、カタンと音がしただけで、ワッ！と(笑)、吃驚びっくりして飛び上がるくらいなんです。最初は厭いやでしたよ。

しかし、お化けは、ただ出て来るだけですから、別にどうという事はないですね。逃げる必要も無い。住んでいる場所ばしょ〓世界が違ちがうんですから——。

ただ違う処から、観みているだけ、感じるだけです。

これは、お化けが怖こわいということではなくて、今、肉体を持っている私達も、実は何れ終わって行く訳ですよ。自分がそういうお化けにならないようにと、そのお化けが姿を見せてくれているんですね。

「あなた、わたしみたいになりなさんなよ」とそう教えているんじゃないでしょうか。

そうになったら、大変ですから、もつと楽しい事を考えて、心を明るくして毎日を過いごしましょうということですね。

そうすると、こういう現象は何故起きるのか？——やはり、それだけ念ねんというものが残のこっている訳なんです。念ねんなんです。念ねん〓想おもい。

人間というものは、生きている時には、集団しゅうだんがあると、集まった人はその中で少しでも人のやっっていないような、格好の良い事、みんなの目に付く事、それでまた、みんなよりも何か自分は分かりたいとか、靈れい的な力ちからを持ちたいとか、そういう考えを持つ訳です。

組織そくしみたいなものが出来てきて、その中に入いっていくと、尚更なそれが激はげしくなっ

いく訳ですね。

それは宗教というものにしてもそうですね。その組織の中で、少しでも人より良くなるうという心を持つてしまう。使つかいようによつてはいゝかもしれませんがね。人間というものは、どうしても、人を蹴落けおとしてやろうとか、沢山集たくさんあつまった人を利用りようして、金を儲もちけようと考える。それから、

- 一、自分の暮くらしが良くなりたいたい。
- 一、家族かぞくの不調和ふちょうわを、調和てんわしたい。
- 一、病びやう気きをしているので、何とか治なおしたい。
- 一、家庭けいたいの中ちゆうは、子供こどもと上う手てくまいかないんだけれども、何なにとかならないだらうか。
- 一、良い学校がっこうに入いりたい。
- 一、良い人ひとと結むす婚こんしたい。

——こういうような事を考える。

中には、選挙せんきよで当選とうせんしたいという人もいる。これはこの前、私の処せうだんに相談そうだんに来た、或る議員ぎいんさんがいるんですね。

——次回に続く

次回『一四、ある政治家の相談』『一五、縁とは約束事』の更新予定は、四月中旬頃です。どうぞお楽しみに。